

6月25日 やればできる

勉強が嫌いだった。当然成績も悪かった。でも、親からは「おまえはやればできる子なんや」とずっと言い聞かされてきた。そのせいか、自分の中に「根拠のない自信」みたいなものが知らぬ間に染みついていた。

けれども、私は中学でも高校でも、何一つとして本気で向き合うことがなかった。部活動にも入らない、生徒会活動なんて恥ずかしくてできない。勉強も……。そのくせ心の奥底に「俺はやればできるんだ」という思いだけがあった。

高校2年の時、『山月記』を学んだ。まったく理解できなかった。人が虎になるなんてあり得ないと、先入観が脳を塞いでいた。しかし、一つだけ共感できる場所があった。それは李徴が、自分の才能のないことを暴露されるのが恐くて、詩友とあえて交際しなかった、というところだ。「何でもやればできるはずの私が、もしやってもできなかつたら……。それが恐くて何事にも真剣に向き合わなかったのかもしれない」

そんなとき、ある有名人がこんな話をしていた。「やればできるなんてうそ。人間やってもできないことは山ほどある。やればできると思って何もしなのが一番ダメ。やればできるかもしれない。やってみないとわからない。そう考えて様々なことにチャレンジしてほしい」

私の中の「根拠のない自信」がずっと姿を消した瞬間だった。

